

に ぶ ん せ き つ い

二分脊椎



子ども達に「**勇気**、**夢**として**笑顔**」を

にぶんせきつい 二分脊椎

せきつい
脊椎とは、背骨のことです。妊娠初期に脳や脊髄などの
ちゅうすうしんけいけい
中枢神経系のもと(神経管)が作られる際に異常があ
ると、脊椎の管が開いたままの状態になります。そこか
ら、脊髄が脊椎の外に出て、癒着や損傷を起こします。
その結果、様々な神経障害をきたします。

【症状・診断・治療】

二分脊椎は、大きく2つに分けられます。

- ① けんざいせい
顕在性二分脊椎症（開放性）
- ② せんざいせい
潜在性二分脊椎症



- ① 顕在性二分脊椎症（開放性） : せきすいまいまくりゅう
脊髄髄膜瘤ともいわれます。



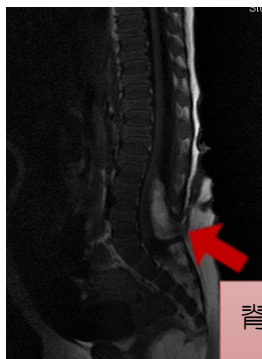
背中に神経や神経を守る膜の一部が
露出している状態で、生まれる前に
エコーで診断がつくことがあります
(出生前診断)。



脊髄髄膜瘤のMRI :

骨盤の高さに大きな袋ができ、その中
に脊髄が脱出てきています。

露出している部分から感染をおこす可能性があり、出生後すぐに背中の瘤の閉鎖手術が必要です。**下肢障害**に対しては、車いす・補装具等、また、**排泄障害**に対しては、導尿・摘便・浣腸・洗腸といった対処が必要となります。ほとんどのお子さんは、水頭症も合併しますので、VP シャント術も必要となります。



出生後～幼児期に
おしりの周辺の
皮膚異常（隆起や凹み）でみつきり、
診断は、エコーや MRI で行います。



脊髄脂肪腫の MRI：

皮下と脊髄が脂肪組織により、繋がっています。脊髄係留症候群といます。

成長期になると、腰の部分で癒着した脊髄は、身長の伸びについて行けずに引き延ばされ、排泄障害や下肢のしびれ・^{とうつう}疼痛や機能低下などの症状を起こす可能性があります。この状態を、^{せきすいけいりゅうしょうこうぐん}脊髄係留症候群と呼びます。治療は、症状が出る前に予防的に脊髄の癒着をとる手術を行います。または、症状があるときは、その進行の予防を目的として手術を行うことがあります。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

<脳神経外科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605

2022.8 改訂